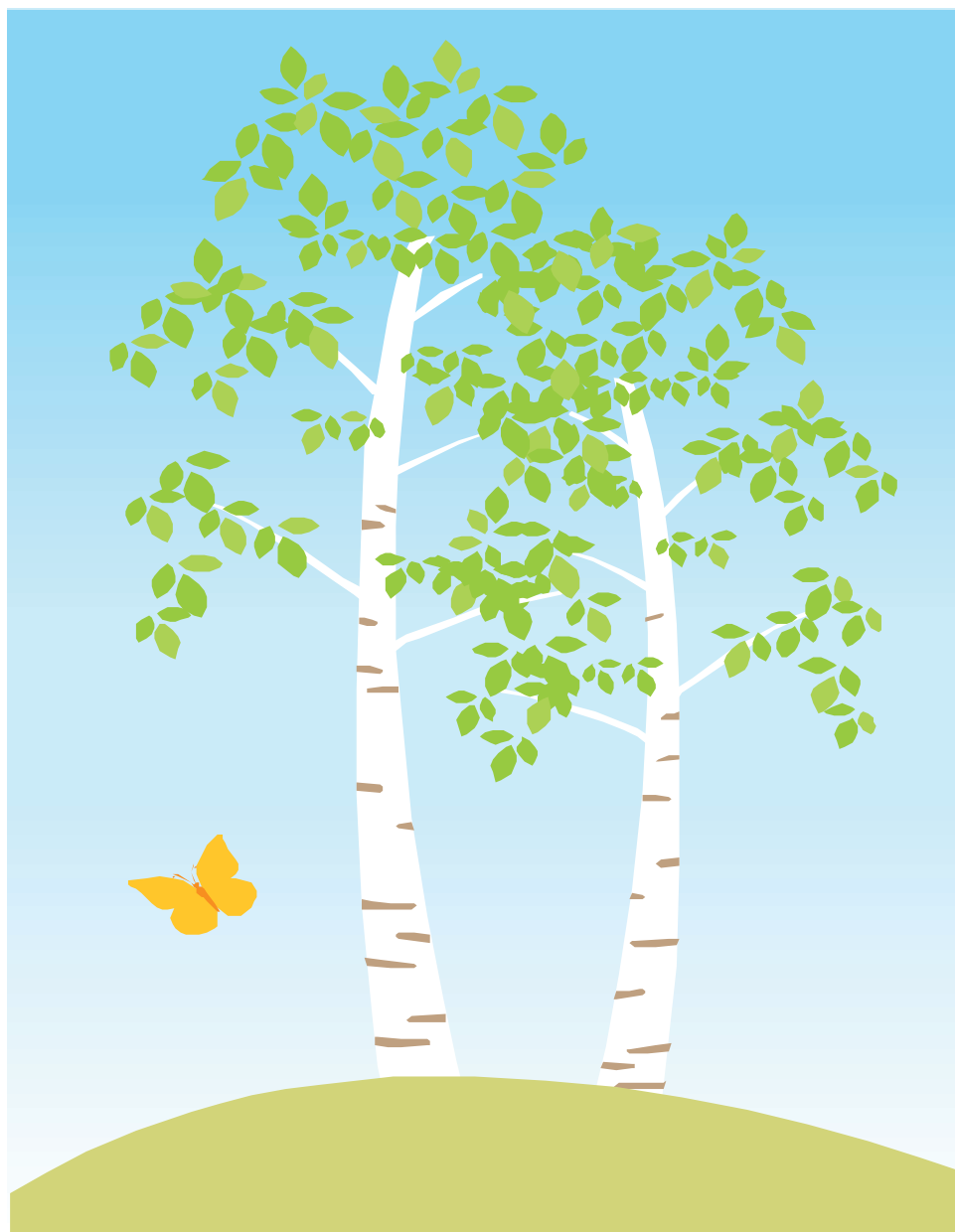


# 環境報告書 2012



**🏢 マックストーン株式会社**

<目次>

ごあいさつ	2
会社概要・事業概要	3
品質方針	4

**環境マネジメント**

環境方針	4
環境マネジメントシステム運用状況	5
環境目的・目標達成状況結果	6
環境負荷データ・CO <sub>2</sub> 排出量	7

**環境パフォーマンス**

環境保全活動	8
環境配慮型製品への取り組み	10
緊急事態の対応訓練・準備	16

当社が環境ISOに取り組んでから10年目となり、社員一人一人が日々の企業活動や市民生活の中で、ライフサイクルを通じた環境負荷低減の意識を持ち、廃棄物の(3R+2R)を

- Reduce ゴミを出さない・減らす
- Reuse 再使用・繰り返し使う
- Recycle 再生して利用する
- Refuse 余分なものは断る・受け取らない
- Repair 修理して使う

地に着いた行動として継続的に実践してまいりました。

現在、地球上で異常気象が起因すると考えられる災害や諸問題が顕在化し、又、新興国では経済発展に伴う廃棄物問題、大気・水質汚染などが深刻化しており、環境問題への対応は「待ったなし」の状況です。私達一人ひとりが同じ想いを共有し、連帯感を持った全員参加の活動にしていくことが、これらの課題解決の確実な近道だと考えます。

環境ISO活動が経営に直結するものは多くはありませんが、循環型社会に意識を持って取り組み、「自然と人間の調和に関する活動」を関係者全員で継続して心掛けて行きます。

このたび「環境報告書2012」が纏まりました。

継続して地球環境保全に関する取り組みのほか、コンプライアンスや労働安全衛生など、社会的側面に関する活動についても、情報開示の更なる充実を図るよう考えています。

「特許でメシを食う、社会に貢献する企業を目指す」創業からの理念のもと、開発する全ての製品で「環境貢献」を追求し、省エネの取り組みでは再生材使用や特定化学物質削減を積極的に進めていきます。且つ、事業活動に投入する「エネルギー」や「諸資源」、排出される「CO2」や「廃棄物」の削減を継続して進めながら、当社製品・サービスの提供を通じて、企業の社会的使命を果たすために、広く地域社会に貢献し、期待され・信頼され・愛される企業として、新しい価値を創出し、持続可能な社会の発展に貢献出来るよう努めて行きます。

常務取締役

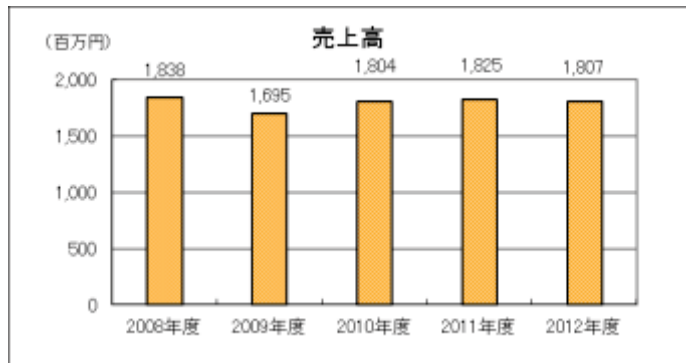
対象組織: マックストーン株式会社  
報告対象期間: 2012年4月1日～2013年3月31日

## 会社概要・事業概要

### 会社概要

会社名 : マックストーン株式会社  
 所在地 : 〒417-0001 静岡県富士市今泉3650-2  
 TEL: 0545-21-1110  
 FAX: 0545-21-0064





設立日 : 昭和62年11月  
 資本金 : 1,000万円  
 売上高 : 1,807百万円  
 代表者 : 佐藤千枝子  
 従業員 : 22名



### 事業概要

当社は、コンクリート板を主とした屋外・屋内用(地面、屋根、バルコニー等)コンクリート製品の設計・開発及び製造並びに販売、施工支援を提供しております。

#### 主要製品

<p>屋根防水仕上げ保護材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ルーフマット」シリーズ&lt;不燃認定番号NM-9319&gt;</li> <li>・「e-デッキ」シリーズ &lt;不燃認定番号NM-2057&gt;</li> </ul> 	<p>床舗石シリーズ・防草対策機能付法面保護材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舗石平板(コンクリート系)</li> <li>・縁石(コンクリート系)</li> <li>・平板(コンビネーション=天然石貼り)</li> <li>・グラストップ(コンクリート系)</li> </ul> 
<p>コンクリート擬石連結金網</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングブロックマット</li> </ul> 	<p>屋上緑化用部材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョインロック、リーガルミニ(コンクリート系)</li> </ul> 

## 品質方針・2013

我々は、「ルーフマット」を中心としたコンクリート二次製品の開発・製造・供給の事業でお客様から満足と信頼を戴くとともに、品質マネジメントシステムの向上と人材の育成を通して企業文化を維持し、社会への貢献を達成する。

1. 品質を重視し、責任を持って仕事を確実にやり、お客様に信頼され、満足いただける製品を供給する。この為の素早い対応と努力を惜しまない。
2. 構築した品質マネジメントシステムを有効に運用し、継続的な改善に努める。
3. 品質目標を設定し、この目標を達成するための活動を計画し実行する。マネジメントレビューをはじめ、PDCAサイクルを適切に継続運用する。
4. 品質方針・品質目標を全ての関係者に周知させ、理解されるよう啓蒙に努める。
5. 常に変化するお客様の要求・期待やコンプライアンス等の社会的責任の観点から、ノウハウを蓄積し、専門性を高め、品質マネジメントシステム及び品質方針の適切性を持続するために必要な取り組みを継続的に実施していく。

制定日 2001.10.15

改定日 2013.04.01

## 環境方針・2013

当社は、人知の及ばぬ自然の脅威に直面し、今までと同じ社会生活を続けることの難しさを実感すると共に、経済成長と環境とのバランスが重要課題と認識し、コンクリート二次製品を主とした開発・供給の企業活動と市民生活を通じ、自然と人間の調和を自らが責任を持ち、身近なことから一歩ずつ取り組み、この維持向上に努める。

1. 全社で省エネルギー、廃棄物の排出抑制・リサイクル化に取り組む。
  - ① 廃棄物の発生量の削減
  - ② 使用エネルギー、及び資源の効率的な利用
  - ③ 再生可能エネルギー・分散型エネルギーの活用
2. 業務に関わる環境関連法および同意事項を順守し、環境汚染の予防に努める。
3. 環境目的・環境目標を設定し、その実現を図り、実現状況を毎年見直して、目標達成のための改善を継続して実行する。
4. 環境方針・環境目的・環境目標を全ての関係者に周知させ、理解されるよう啓蒙に努める。
5. 環境に配慮した技術と製品の開発に、全ての関係者が継続して注力する。

制定日 2006.06.26

改訂日 2013.04.01

## 環境マネジメントシステム運用状況

当社は、2007年1月、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得し、システムの継続的改善に努めております。

### コンプライアンス（法令順守）



当社に適用される法令や条令の要求内容を特定する手順を定め、年1回順守評価を実施し、規制を外れることの無いよう維持しています。

また、法的及びその他の要求事項として文書化し、社内へ周知しています。

### 内部環境監査



外部講習機関の内部環境監査員養成研修を受講し、合格した監査員によって、年2回の内部環境監査を実施しています。その中で、ISO14001規格への適合性、運用状況等の確認をし、監査結果については、マネジメントレビューにより改善へと繋げています。

#### 【2012年度監査結果】

2012年度内部監査は平成23年10月15日・平成24年5月13日で本社事務所にて実施しました。監査目的は、

「EMSがどのように実施され、維持されているかについて、ヒアリングをしながら適合を確認し、その中での「継続的な改善」についても確認していく」でした。

10/15 監査結果  
重大不適合 0件  
軽微不適合 1件  
観察事項 0件

5/13 監査結果  
重大不適合 2件  
軽微不適合 0件  
観察事項 0件

### 外部審査



年1回、第三者機関による外部審査を受け、認証登録を継続しております。

	内部環境監査指摘件数			外部審査指摘件数		
	重大不適合	軽微不適合	観察事項(OB)	重大不適合	軽微不適合	観察事項(OB)
2008年	1	1	2	0	0	1
2009年	2	4	2	0	0	6
2010年	5	1	3	0	1	2
2011年	1	4	5	0	0	3

#### 【2012年度外部審査報告】

第2回再認証審査が2012年11月1日に行われました。

重大不適合 0件

軽微不適合 1件

観察事項 5件

結果：環境 ISO に取り組んで8年目となり“マンネリ化”を感じる部分が多々見ら

れた。今後は役に立つISOの実施・活用をより意識した運用を行っていきたい。

《2012年度 環境目的・目標と結果》

環境側面	環境目的	2012年度環境目標	目標達成状況／変化量	目標達成度	備考	
電力	電力使用量を2015年度末までに2010年度比で3%削減する。	電力使用量を2011年度末までに2010年度比で1%削減する。	電力使用量 / -0.1%	△	H24年度は夏の猛暑などの影響でエアコン等を使用したこともあり大きな節電達成には至らなかった。今後は節電効果が期待できるエアコン等へ切り替えていくことなども視野に入れ、全社での節電対策を図っていき	
コピー用紙 使用量及び 廃棄量(受発 注業務の効 率化)	コピー用紙の再利用を推進する。	裏紙利用可能な用紙を利用促進する。 使用済みコピー用紙は再生業者へ提供する。	提供量調査 / +871.0%	△	使用済みコピー用紙提供量はコンテナ書庫内の書類を一齐廃棄したため数値的に大きな増加となっており、正規な評価ができなかった。	
	コピー用紙の使用量削減の実施。	支店・営業所の電子媒体などを活用し、受発注業務等の効率化を具体案件として1件/年以上の改善を目指す。	使用量調査 / -4.9%	○	顧客とFAXでのやり取りからメールなどでのやり取りとなったことからコピー用紙使用量も減少していると推測。	
	顧客、支店・営業所間の業務の効率化を図る。		ハウスメーカーを中心に電子受発注システムの運用が確立されつつあるとともに、日々の業務においてFAXによる書類送付から電子媒体での書類データ提出対応が広がっている。			
産業廃棄物 一般廃棄物 ※一般廃棄物の処理も産廃処理業者へ依頼	一般廃棄物の分別を徹底し、削減案を検討する。	継続的に分別について徹底しながら、更に分別方法の細分化検討をおこなう。 廃棄物分別の徹底。(配送業者への教育・指導の徹底) 各現場でのゴミの分別処理の推進。 ○前年度比2%の削減を目指す。	廃棄量調査(ガラ) / +3.2%	×	H24年度のルーフマット施工㎡数の増加量が約3.0%となっていることから事業増加分がそのまま廃棄量の増加に繋がったことが分析できる反面、大きな削減効果も得られていないことも数値から読み取ることができる。H25年度は一つ一つの作業を見直すとともに歩留まりの良い製品設計の見直しをしながら廃棄量の削減に努めていきたい。	
			廃棄量調査(紙くず) / 0.0%	△		
			廃棄量調査(ビニール・プラ) / +27.8%	×		廃棄量が増加した主な要因として、PCデッキの張り替え工事によって発生した残材等の影響が大きいと推測される。提供量の減少については現場ゼロエミッション化への積極的な参加などが要因と思われるものの、減少率があまりにも大きいため改めて廃棄分別が徹底されているか見直しを図っていく必要がある。
			提供量調査(プラスチック・スチロール) / -76.5%	×		
			提供量調査(ダンボール) / -33.3%	△		地元中学校への無償提供が進み昨年度よりも更に減少。
	現場での製品カット端材の削減。	敷設現場において割付け検討による廃棄物の減少を継続的に実施する。	現場状況、顧客での設計指針などの変化により従来のプレカット平板の使用量が減っているが、敷設現場での割付け検討によりカット端材の発生は軽減しつつある。	△		
	木製パレットの廃棄量を削減し、再利用を促進させる。	前年度年間購入量に対して再利用率50%を目指す。 再利用不能パレットの資源有効利用(バイオ燃料)の推進。	提供量調査(2011年度4月～) 500用・・・2562枚 600用・・・1442枚 ※再利用率:92.3%	○	木製パレットの再利用はH24年度より本格運用を始めたが、再利用率が92.3%と目標値より大きい達成度となった。この数値は2回以上の再利用パレットも含まれていることから今後再利用パレットを利用する際の安全基準(再利用は2回までなど)を設けるなど検討していきたい。	
環境配慮型製品の開発・販売の実現	1件/年以上の環境配慮型製品の開発・販売の実現を目指す。	2012年度末までに「2物件以上/年」の開発着手と「1件以上/年」の製品実現を目指す。	ハウスメーカーから提供されるリサイクル骨材を利用した商品の確立および採用が決まるなど継続した商品開発、活動を実施。	○		
	2015年度末までにエコマーク製品による事業拡大を目指す。	既存のエコマーク取得製品及び静岡県リサイクル認定製品の拡販をおこない、2物件以上/年の採用を目指す。	2012年度の実績は1件のみと目標未達であった。引き続き積極的な営業活動を行い、リサイクル認定製品の拡販を行っていく。	×		

## 環境負荷データ ・ CO<sub>2</sub> 排出量

当社では、事業活動における環境負荷量を調査・把握し、中長期目標を策定し、環境負荷低減に取り組んでいます。

### INPUT

#### エネルギー

- 電気: 38,015kwh
- LP ガス: 302 m<sup>3</sup>
- 灯油: 610ℓ
- ガソリン: 13,598ℓ
- 軽油: 2,922ℓ

#### 水資源

- 水道: 932 m<sup>3</sup>

#### OA用紙

- コピー用紙: 698kg
- 帳票その他: 68kg

### OUTPUT

#### CO<sub>2</sub> (二酸化炭素)

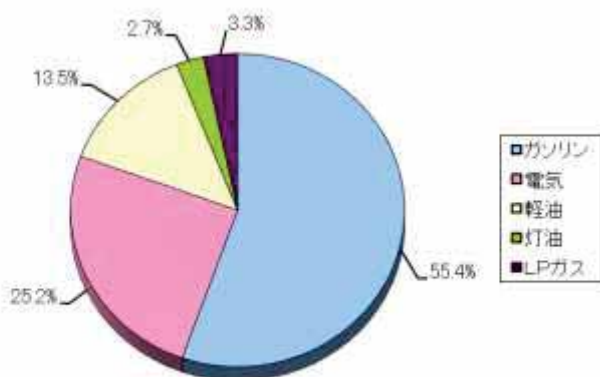
- 排出量: 57.0t

#### 廃棄物

- 不燃ごみ: 194.5t
- 可燃ごみ: 1.0t

#### リサイクル

- 紙: 3.0t
- 包装・容器類: 1.2t



2012年度 CO<sub>2</sub>排出量内訳

※CO<sub>2</sub>換算基準：事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン（試案）参考



## 環境パフォーマンス

### 環境保全活動

当社では、業務において常に「環境に配慮する」姿勢を意識すると共に、構内の整備・清掃状況についても常に監視し、適切な状態を維持することを心掛けております。

### 廃棄物量の削減

廃棄物排出量の削減とリサイクルの推進に向け、廃棄物の実態調査を行い、排出されたごみの分別を実施しています。



廃棄物処理方法の徹底を図る為、コンテナボックスに処分ゴミの種類を表示



パレット・フレコンバックの再利用



分別用ゴミ箱の整備

### 省資源・省エネ対策

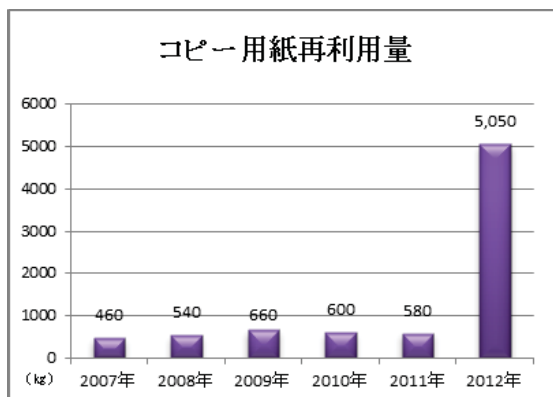
当社では、省資源の観点から、コピー用紙裏紙再利用を推奨事項とし、その他『プロジェクター会議』『データのデジタル化（デリバリー業務の電子化）』など、ペーパーレス活動を日々の業務において実践し、無駄な紙資源消費軽減に努め、使用済みの紙は廃棄処理業者ではなく、再利用業者へ提供しています。



その他、事務用品のグリーン購入推進、節電対策として事務所窓への紫外線反射フィルムの貼付、室内電気スイッチ部分に「使用後は消灯」表示、排気ガス・騒音防止の徹底を促すアイドリングストップ表示と、常に環境保全に対する意識向上に努めております。

## 植林ポイントで地球環境に貢献

シュレッター処理では、紙の繊維が短く裁断されることからリサイクル率が落ちてしまうため弊社では、紙の繊維を傷めない100%リサイクルを実現するため。エコロック森林ポイントを2007年度より活用しCO2の削減にも努力しています。



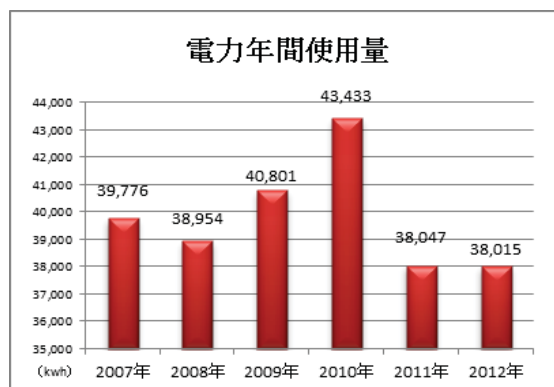
## グリーン電力購入

マックストン株式会社は、地球環境問題の一環として、2009年4月付にて日本自然エネルギー株式会社から「グリーン電力証明書」年間45,000kwhを購入する契約を締結しました。

今後これにより、当社は、直接発電設備を導入しなくても、自然エネルギーによる発電の普及促進に貢献していきます。

《グリーン電力証書概要》

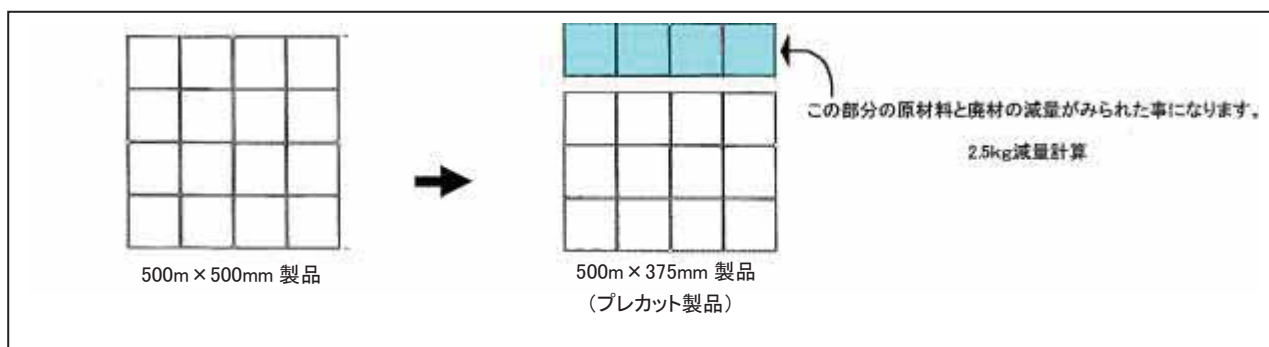
電力購入量	4.5万kwh(バイオマス発電)
契約期間	平成22年4月～平成27年3月 5年間



## 環境配慮型製品への取り組み

当社では、原材料と廃材減少・施工効率向上を目的としてプレカット製品の使用率アップに取り組んでいます。

例：500角平板「ルーフマット」



その他にも施工効率向上および廃材減少を目的とした、500角製品「割り肌調125角」・300角製品「e-デッキシリーズ」もリリースしております。

また、「ルーフマットシリーズ」「e-デッキシリーズ」は、国土交通省の不燃材料認定試験に合格し、大臣より不燃建材として認定されており、火災防止など間接的な環境影響を防止する性能・効果を持っております。

## 大切な防水層を守ります。

品質管理 (ISO9001) されたコンクリート製品で耐候性・耐久性に優れているので、紫外線や落下物の衝撃から防水層を保護します。



## 防火地域でも使用できる。

ルーフマットは不燃材料認定試験に合格し、国土交通省より不燃建材として認定されてます。

<不燃認定番号NM-9319>

※写真はイメージです。  
製品の上で直火の使用はお控えください。





## 《2011年度開発検証》

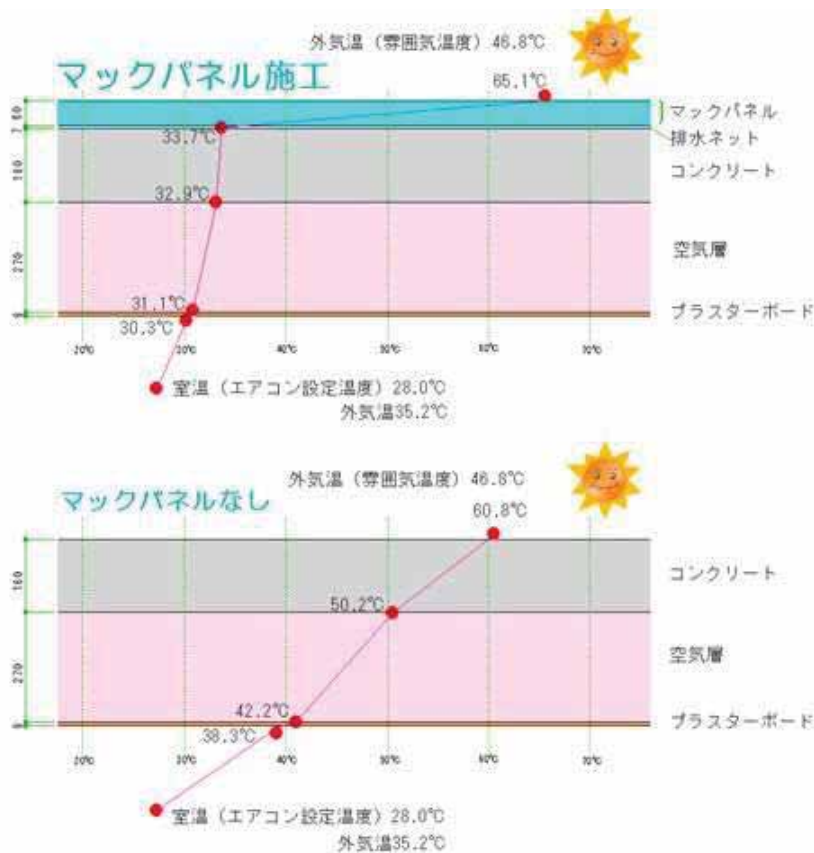
紫外線や熱劣化、落下物などから防水層を保護し、外断熱効果も期待できる商品として開発した『マックパネル』の断熱性能評価を行うため、コンクリート建造物屋上にマックパネルを敷設し、温度測定試験を行いました。

### ◆温度測定状況

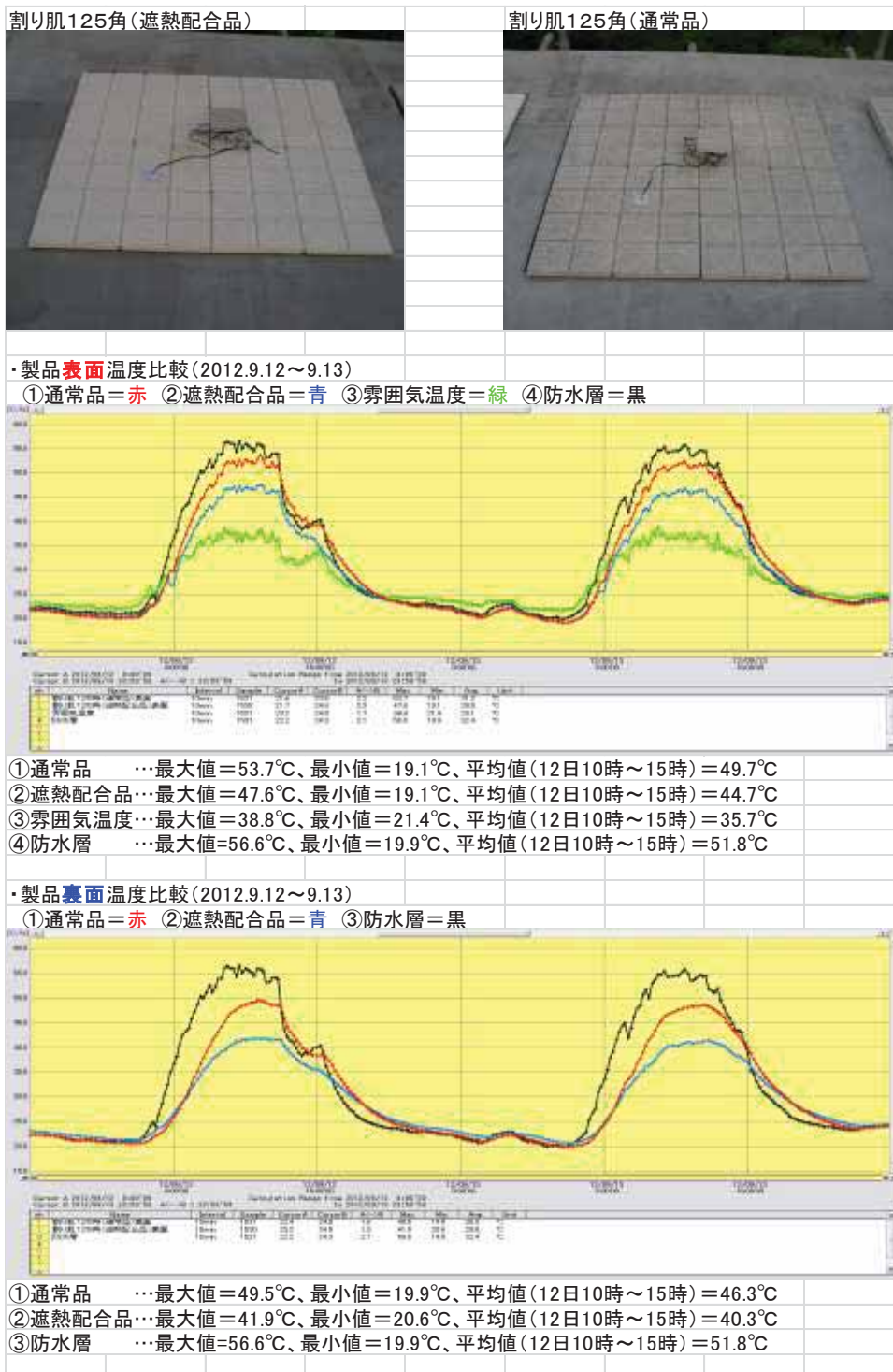


### <検証結果・考察>

室内天井仕上げ材の温度は、マックパネル敷設部で30.3℃、マックパネル敷設無し部で38.3℃と8.0℃の温度差があり、外断熱効果があることが確認できた他とともに夏季や冬季のエアコン電力消費軽減による省エネ効果も期待できることが確認できました。



## 《2012 年度開発検証》



### ＜検証結果・考察＞

通常品と遮熱配合製品の温度差は製品表面で $-6.1^{\circ}\text{C}$ 、製品裏面で $-7.6^{\circ}\text{C}$ の温度差があり、何も製品を敷設しない防水層表面と遮熱配合品裏面では最大  $14.7^{\circ}\text{C}$ の温度差が確認できたことから、遮熱配合製品を使用することでの遮熱性を確認することができました。

## 緊急事態の対応訓練・準備

当社では、事故・災害などの緊急事態に速やかに対応し、環境リスクを低減するために緊急事態及び事故の可能性特定リストを作成し、予想される環境影響の予防又は緩和する為の手順を示しております。また、緊急事態対応担当者を設け、通報ルート等が的確に活用できるよう緊急事態への準備及び対応訓練を実施しています。

### 2011年度 避難訓練

日時：平成23年12月12日

参加人数：20名

- 今回想定した緊急事態
  - ・ 事務所内火災（自己消化不可能）が

- 今回の重要確認事項
  - ・ 避難経路の
  - ・ 避難場所の確認、情報共有
  - ・ 構内緊急事態対応担当者の行動確認
  - ・ 持ち出し品の確認（ランクAを想定）



#### ■ 訓練の様子



#### ■ 今回の感想・改善事項

- ・ 緊急事態対応の各担当者が各々の役割を把握していたため、避難も速やか
- ・ 今回の緊急避難訓練では救護班、危険物処理班が具体的に対応する内容全ての各役割担当者が行動、対応できる内容を計画的に準備し、訓練を行う

専門業者による枝の  
伐採処置完工後



公共道路・公共電気配線への影響を配慮し、  
構内植樹樹木の伐採処置実施



ガラ(廃材)置場に高さ制限  
の表示



強風時のゴミの飛散防止  
対策としてネットを取付け



**MAXSTONE**